

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 7年 2月 11日

氏名 佐野良介

所属 教職開発 コース

指導教員名 浅井幸子

1. 研究課題 水俣病に関わる環境問題の国際的課題の探究
2. 報告する学術活動の実施期間 令和 7年 1月 28日 ~ 令和 7年 1月 28日
3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
 - 国外 国内
 - ①英語論文公表
 - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
 - ③フィールドワーク
 - ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑥研究指導委託
 - ⑦留学
 - ⑧国際研修
 - ⑨国際インターンシップ
 - ⑩その他 (具体的に:)

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	②、⑤
<p>本研究発表は、科研費研究「子どもと自然の新しい関係のための教育理論とアプローチの構築:気候変動の時代の保育(研究代表者:浅井幸子)」によるものである。</p> <p>本科学研究においては、ポスト人間中心主義の保育学の拠点となっている二つの国の研究者グループ、レッジ・インスパイアの教育アプローチを用いて先進的なESDの実践を拓いてきたスウェーデングループと、ラトゥールやハラウェイの思想からコモンワールドディングの教育学を構築してきたカナダグループとともに共同研究を行っている。その中で、自然と子どもの関係を中心とした新たな保育の在り方を理論的、実践的に検討を重ねてきた。</p> <p>申請者は、この科学研究における、Online Study-meeting(2025年2月28日実施予定)にて自らの研究知見である日本とカナダの水俣病の経験を発表する。日本とカナダは、共に水銀汚染による水俣病を経験してきたため、自然と人間の関係を模索するうえで重要な議論となる。</p>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
 ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
 ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
 ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究創発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

①学術活動の目的

本学術活動の目的は、日本が引き起こした水俣病の経験とカナダの水俣病の経験を共有することで、自然と人間の新たな関係性の構築に寄与することである。日本では、1900年頭にチッソが水俣に進出してから、朝鮮への植民地支配や軍需産業を基点として自然破壊を拡大させてきた。そして、毒性のある廃液を流し、元来水俣に住んでいた漁民を中心とする人々に健康被害を与えてきた。一方で、カナダにおいても水俣病と同様の被害が先住民を中心に確認されている。つまり、そのどちらも植民地的支配の中で社会的弱者を中心に環境破壊が行われた。申請者のこの発表を通じて、あるべき人間と自然の関係を、カナダの研究者との知見を交流することで考えることを目的としている。

②成果

水俣病とカナダ水俣病の関する報告を行い、その成果としてカナダとスウェーデンの研究者より、以下のようなコメントを頂いた。

- ・まず、カナダの研究者からは、カナダ水俣病は、カナダにおいても蔓延している深刻な問題として認識されており、教育や教師らにとって、非常に重要な問題であることを確認した。

- ・そして、カナダチームが探究している教育の理論的枠組みとも大いに接点があることが確認された。

- ・次に、スウェーデンの研究者からは、スウェーデンの湖においても汚染の課題があることが報告された。とりわけ、スウェーデンはグローバル化という新しい流れの中で、他国からの汚染を受けているという状況をどのように捉えるのかという点について議論した。また、バルト海の汚染についても共有があった。

総じて、水俣病という水銀汚染を媒介して、各国の環境汚染問題の在りようについて共有し、気候変動の問題の共通の認識の共有を行うことが出来た。とりわけ、気候変動問題と水俣病問題が深い関わりがあることが研究会では発見され、このことは、気候変動時代の教育について、理論的実践的に考える本研究プロジェクトにとっての成果であったと考えられる。

③成果と自身の研究課題との関連

申請者は、これまで水俣地区の公害教育の歴史的検討を重ね、日本の環境教育史を構築しようと試みてきた。しかし、水俣病は、日本だけで起こっているわけではなく、世界中で起こってしまった水銀中毒問題でもある。そのため、世界的な視野でその問題の所在とあるべき教育について考えなくてはならない。今回の申請者の発表は、世界の研究者の見地から、水俣病問題と教育を考えることに繋がり、自身の研究課題とも大いに接合するものである。

また、気候変動という現在の大きな研究課題と水俣病問題が接合するということが分かった。このことは、国際レベルでの議論を行った結果であったからだと考える。引き続き、博士論文の執筆に向けて、現在の環境教育の潮流を踏まえて執筆をしていく所存である。